發程前預定スルノ三策

414
A21[illegible]
2

大隈
吉田

造幣寮ノ儀創立以来其長ヲ易フルモノ子茲
數回各其任ニ安ンゼス現今之長猶辞セントヲ乞フモノ
日久シ其故如何ントナレバ由ラ来ル所アリ是近其
人或ハ材幹適セス隨テ理務上堪ヘザル所ロナシトセズ
邂逅人アリ或ハ果断事ヲ處セントスレバ首長キンドル
權ヲ專ラニシテ敢テ恐ロセザルヨリ瑣々タル細事モ動モ
スレバ意外ノ葛藤ヲ生スルニ至ル為事彼ノ好ンテ
我レニ抗スルモノ他ナシ當初我政府東洋銀行ニ
委托ノ厚キニ過キ既ニ其事ヲ托シ又其人ヲ

熊谷
明治一年四月
大隈侯爵邸寄贈
玉子
大蔵省

撰モ彼レニ委子シヨリ聘シテ到ル所ノ「キンドル」ナレバ政府モ或ハ同人ヘ對シ大ニ権ノ行ベカラザルモノアリ加之其人タル多少本社ノ声誉ヲ張ルヲ助ケ甚シキハ媚ヲ本社ニ献スルノ弊ヲシトセズ是亦勢不得已ニ出ルモノアラン是式ノ邉ヨリ我長ハ不平ヲ重子訴フルニ由ナク喋々之ヲ鳴ラシ竟ニ退クニ至ル去テ顧ミザルモノヽ如シ是レ内外ニ對シ政府ノ体裁宜ロシカヲ得タルモノト云ヘカラズ抑我政府ニ属スル造幣寮ニシテ其人ヲ撰挙之レガ任ヲ授ケ職制章程ヲ履行ヤシメンニ他ノ締約人ヲ傭フトコロノ異邦人之レガ大柄ヲ握ル如此苟シクモ有志ノモノ其任ヲ尽サントスレバ抗抵セザルヲ得ス必然亦已ノ勢ニ有之候依テ察スルニ從令将来其人ヲ選ムモ此法存スルノ間ハ常ニ同一轍位ニ居ル未幾ナラザルニ苦情嗷々鼎沸可致此法ヲ存シ此不平ヲカランヲ要スレバ事業ノ整頓セザルハ勿論到底謟諛以テ彼レノ

妾婦タルノ心ナラズンバ不能瞭然如見被考
候若忍耐事ヲ能クスルモノ其任ニ當ルモ初
メ一回両回或ハ神経ヲ鈍ラシ狂テ之レニ
従ハン再三再四誰カ敢テ之レニ屈センヤ
是ヨリ風波端ヲ開キ彼此相軋ルニ至ル
是マテノ蹤蹟ヲ以推スニ其人材ノ能否ヲ不
問齊シク前段ノ不満アルヲ常トス歴々
以テ證スルニ足ル夫レ如此モノ如何ンゾ彼レ
ノ約ヲ解キ其人ヲ退ケザル
我カ開化日猶浅シ矧ンヤ此ニ迫代幕ノ

時ニ於ケルカ如キ國家ノ至宝萬民信憑ノ
最タルモノヲ以一ノ商人輩ニ委托ス維新来
頭ニ萬服改正蜚革就中造幣ノ事務最
先ニ居ル品位量目ヨリ以テ鑄造工業ニ至ル
マテ積年ノ粗拙ヲ去リ各國ノ製ニ模倣シ
初テ其正ヲ得ル此時ニ當リテ内チ亦タ熟達
ノ士ニ乏シク當時ノ艱苦以テ想フベシ之ヨリ甚
シキモノアリ外交日ニ盛ナルノ時猶立ノ國權ヲ
張ランニハ先ツ威信ヲ海外ニ示サザルベカラ
ズ其最モ信用名望ニ関スル所ノモノ則チ

貨幣是レナリ依テ一ト度之レガ挙措ヲ誤レバ恐ラクハ萬世不可易ノ幣ヲ永タサント故ニ發行之初メヨリ彼我通用上永ク其聲誉ヲ下サヾル樣ニトノ注意ニ過ギ且當時内兵燹ノ餘煙猶未タ全ク冷カナラズ此際幾重ニモ信ヲ萬方ニ固ムルヲ慮カルノ深キヨリ只管東洋銀行ニ依頼シ當時ノ見其実暗ニ富強各國ニ冠タル英ノ聲誉ノ幾分ト東洋銀行社中ノ巨萬資本ニ富ミ東方第一確実ノ名望アルモノトヲ我ニ假リ候姿ニ有之依テ「キンドル」トノ約モ頗ル偏重ニ過キ其察タル同社中ノ一部ニ属スルモノヽ如キ勢延ヒテ今日ニ至ル

現今之情況ヲ以スレバ損益上ヨリ立フモ首長初メ俸金其他賞誉報酬ハ莫大ノ金ヲ給シ加之年〻成貨高千分ノ一ヲ其社ニ付スルハ其費用數方是迄旧貨改鑄ハ混合不適當ノモノ多キヨリ却テ或ハ得失相償フニ足ルモ将来品位適當ノ金銀塊及鋳子ハノミ規則ニ従ヒ鑄造候樣成行

候得者得ル所ロ費ヤス所ロニ孰與レゾヤ亦益アリトセザルモノ比ヽ如此今已ニ其不利ヲ知テ政メザレバ將来甚生ナル不測ノ患ヲ釀成センモ不可知去リトテ其之レヲ革ムルヤ之レニ處スル易カラス着手一歩ヲ誤マラバ却テ依然旧貫因襲ノ勝ルニ不如モノアラン偶来ル明治八年三月滿チテ約期畢ル若シ此時ニ方リテ宜シク旧貫ニ仍ルモ將タ之レヲ更正スルモ皆テ政府ド東洋銀行トノ間ニ結ベル條約ニ掲ケシ如ク

六ケ月以前（即チ本年十月）預メ其方向有無如何ヲ報スベキ筈ナレバ内議ヲ盡シ早ク確乎タル定見以テ俟タザルベカラズ惟フニ今ノ政府ハ前日ノ政府ナラズ断然之ヲ處スルモ能ハザルニアラス来去接続ノ際只一大困難アルノミ因テ熟慮スルニ其方三アリ左ノ如シ

第一策ニ於テハ下ナルモノトス

第三ヲ策ノ得タルモノトス

第一　諸事従前ノ通リ新任ノ頭ヲ置キ滿期（キンドル）引続キ前約ヲ継キ更ニ

三年若クハ其餘ノ年間ヲ傭ヒ從事セシム

第二　新任ノ頭ハ材幹其事ニ耐フルモノヲ精撰シテ之レヲ置キ「キンドル」議ハ滿期ノ後直ニ及澌他吏ニ之ニ代ハルベキ外國人ヲ撰ヒ從事セシム

但シ此方ヲ以テセバ「キンドル」ニ於テハ條約已ニ滿ルノ時ナレバ陽ニ苦情ハ有之間敷面アタリ敬羨スベキ當然ノ理ヲ有スルモノトイヘド

陰ニ我妨碍トナルヲ計ラザルヲ保チガタシ一時出入接続ノ際一大困難モ可有之或ヒハ頭ノ拙劣アラバ訣察維持スルニカタカランカ

第三　東洋銀行ノ覊束ヲ脱シ「キンドル」ハ滿期後更ニ二年若クハ三年ヲ期シ之レヲ雇ヒ其條約ノ如キハ政府ト直約ニ結ヒ替ヘ將來我レニ於テ他一般傭入外國人同樣使用ノ權ヲ有シ工業上當否如何ノ監別及

時トシテ造幣頭ノ顧問トナル丈ノ権
ヲ彼レニ付シ従前ノ暴権ハ悉ク剥
奪シ以来何人ノ造幣頭タルモ職制
章程践行相成聊妨碍無之様致
定ス
但此談判完全セバ実ニ幸福不過
之キンド也或ハ輙スリ容ルベカラザル
モノアラン併シ外人ノ常情ノ義
氣ニ乏シキ風習ナレバ理外ノ理
ヲ以テ論究シ我政府ノ約ニ従フカ

将タ東洋銀行ノ束縛ニ甘ンズル
カヨリ陷ハシムルニ利ヲ以テセバ利多
キニ醉フテ服スルモノアラン到底
権ノ高下ハ約ニ在ル儀殊更異
政府管下ノ民ヲ使用スルモノナ
レハ約ヲ以テ之カ制ヲ明カニセザ
ルベカラス約厳ニシテ後弛張抑
揚我意ノ適スル處ニ在リ若シ前
ニ陳スル如クンバ我レ亦賞ヲ重クゼ
ザルベカラズ今ノ約畢ツテ更ニ期ヲ約

シ其満ルニ方リ或ヒハ特殊叙爵
ノ典被行候欤或ハ一萬乃至一
萬五千四ノ恩賜被下候欤両
服ノ御褒置御覧悟無之テハ
不相成異邦人之儀ニモ有之候
ヘバ位階ノ如キ貴重ナルモ當人ニ
於テハ無價ノ聲誉ヲ冩ンヨリハ
寧ロ貨ヲ以テ之ニ酬ユル方内物議
モ有之間敷本人モ一段悦喜之
儀ト被考候依テ今般ノ行先ツ

其端ヲ啓クニ言ヲ休暇中ノ施行
ニ托シ是迄往復上ノ葛藤モ弗
竟筆紙上ニ隔靴掻痒ノ念
ナキ能ハザルヨリ来ルモノニシテ実ニ
数万言ノ文書詳密洩ラサザ
ルモ一面ノ相見親シク面晤スルニ
不如到底前日ノ論議ハ捴テ渙
解無根ニ属スルモノナランカ或ハ
宴ヲ張リ慰労旁相與ニ歓ヲ
尽シ兎角款待ヲ以テ渠レヲ導キ

軟言喝ハシムルニ甘キヲ以テシ本人
ヨリ程能東洋銀行ノ手ヲ為
離候方便ヲ施シ其機ヲ見テ云
〻ノ後ハ云〻委曲談合其結局
概略兼諾ノ旨半公半私ニテ
手記ノ書ヲ渡候事ニ運ビノ胸
等ニ候
右三方法ノ内第一二條ニ付テモ云〻持論有
之候得共右ハ已ニ閣下ヘ開陳致シ置候
次第モ有之ニ付宜敷御領兼有之度第

三方モ前記之通リニテ全ク尽シ候儀ニハ
無之候ヘ共概意如此餘ハ高慮御諒察
可然御兼知ニ候ハヽ御決判御付與有之
度候
右キンドル滿期近キニ在ル儀ニ付テハ先達
テヨリ度〻東洋銀行コロベルトソンヨリ申越シ
候儀モ有之候ヘ共品能申流シ置キ熟慮
ノ末内議確定ノ上其約ヲ謎クモ或ハ断
然及断候モ来ル十月有函報告ノ期マテ
ハ差迫リ申立テハ不相成トノ目途ニ安ンシ

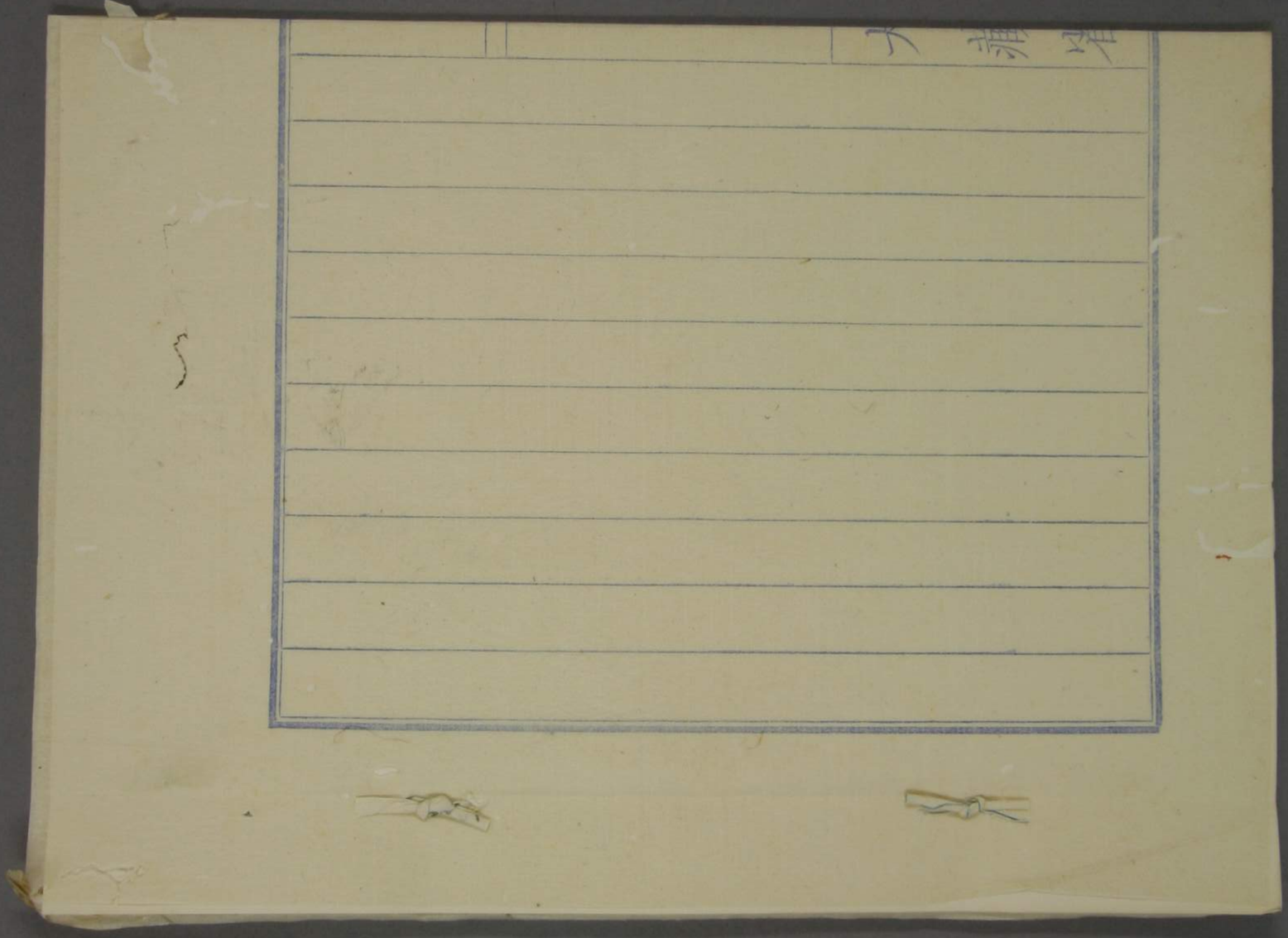
自若タル事ニ有之是レ閣下ノ御熟知有之儀ナリ

右之外他緊要ノ一事有之如左

若出張先キニ於テ此議ヲ初メ万一「キンドル」ノ答意表ニ出テ候ヨリ談察事務上紛議ヲ生シ同人ヨリ「ロベルトソン」抔ヘ相通シ且閣下ヘ差迫リ申立候儀可有之候モ難計若右様之節ハ少輔出張先キ談察事務兼テ委任ノ儀モ有之故同人歸京之日双方兼リ候上ニ亟之テハ決答難及何レニモ他日同人對面ノ時ヲ待チ何分ノ評議ヲ尽スベク迎御答被置度候事

以上

大蔵省

大藏省

大藏省